

第1章 新潟市の概要

1 市勢概要

新潟市は、サンフランシスコ、天津、リスボンとほぼ同じ緯度にあり、東京から北北西約 250 km、上越新幹線で約 2 時間の位置にある。日本海、信濃・阿賀野の両大河、福島潟、鳥屋野潟、ラムサール条約登録湿地である佐潟など、多くの水辺空間と自然に恵まれ、コハクチョウの越冬数は日本一を誇る。

江戸時代から物流拠点「新潟湊」の機能を生かして賑わいを見せていた「新潟町」は、安政 5 (1858) 年に、アメリカ・イギリスなど 5 か国との修好通商条約によって、函館・横浜・神戸・長崎とともに開港 5 港の一つに指定され、世界に開かれた港町となった。

明治 22 (1889) 年、市政を施行。以来、戦争・大火・地震などにみまわれながらも、そのつど復興を成し遂げて発展。平成 8 (1996) 年には「中核市」に指定され、平成 17 (2005) 年には、近隣 13 市町村との合併により、歴史や文化財、郷土芸能、花や豊富な食材、豊かな自然など、さまざまな面でさらに魅力を加え、本州の日本海側最大の都市として大きく飛躍している。

国際空港や港湾、新幹線、高速道路網などが整備された交通拠点であると同時に、国内最大の水田面積を持つ大農業都市でもあるという、他の都市には見られない特徴を兼ね備えており、平成 19 年に政令指定都市へ移行した。

平成 27 年 4 月に改定した新潟市総合計画「にいがた未来ビジョン」において、まちづくりの理念として「地域・田園・自然の力を活かし、健康で安心に暮らせるまちづくり」と「日本海開港都市の拠点性を活かし、創造的に発展を続けるまちづくり」を掲げ、この理念のもと「地域」が主役となり、ずっと安心して安全な暮らしの実現を目指す「市民と地域が学び高め合う、安心協働都市」、「大地」の持つ力を最大限に活用し、新潟にしかない豊かな暮らしの実現を目指す「田園と都市が織りなす、環境健康都市」、「世界」とつながる開港都市としての拠点性を活かし、世界の平和・交流に積極的に貢献する「日本海拠点の活力を世界とつなぐ、創造交流都市」を三つの都市像とし、これからも発展を続けて行く。

新潟市の地勢	面積	726.45 平方キロメートル
	広がり	東西 42.5 キロメートル、南北 37.9 キロメートル
	位置	極東：東経 139 度 96 分 01 秒、極西：東経 138 度 47 分 03 秒 極南：北緯 37 度 40 分 44 秒、極北：北緯 38 度 01 分 12 秒

2 気候

4月から10月にかけては、国内の主要都市に比べ日照時間は長い方である。夏期は太平洋側と同様好天が続き気温も上昇し、高温多湿の日が多いが、海風で比較的しのぎやすい。台風による気象災害は少ない。冬期は曇りの日が続き晴れる日は極めて少なく、強い季節風の吹く日が多い。積雪は県内では少ない方である。

上段:2014年(平成26年) 下段:平均値(1981年~2010年)

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
平均気温 (°C)	2.5	2.5	6.1	11.1	17.1	22.0	24.9	26.1	21.6	16.0	11.1	3.4	13.7
	2.8	2.9	5.8	11.5	16.5	20.7	24.5	26.6	22.5	16.4	10.5	5.6	13.9
相対湿度 (%)	71	71	70	65	65	73	78	77	70	71	74	79	72
	72	71	67	65	69	74	77	73	73	71	71	72	71
平均風速 (m/s)	3.9	3.4	3.8	2.9	3.1	3.5	2.4	2.3	2.7	2.6	3.0	4.4	3.2
	4.0	3.9	3.5	3.4	3.3	2.7	2.9	2.9	3.0	2.8	3.3	4.0	3.3
降水量 (mm)	129.5	73.5	151.5	48.0	90.0	63.0	314.5	163.5	103.0	229.0	174.5	444.0	1984.0
	186.0	122.4	112.6	91.7	104.1	127.9	192.1	140.6	155.1	160.3	210.8	217.4	1,821.0
日照時間 (時間)	71.9	60.8	127.3	244.1	223.7	202.0	195.0	145.2	212.6	160.4	93.5	27.7	1764.2
	57.1	75.1	128.4	181.8	200.2	173.1	169.4	214.9	150.7	144.0	89.9	60.5	1,642.5

資料:新潟地方気象台

3 市域の変遷と人口の推移

明治22年4月1日の市制施行以来3市8町17村との合併を重ね、現在の市域面積は726.45平方キロメートル、平成27年3月末日現在327,723世帯、801,270人である。(住民基本台帳)

合併編入年月日	合併・編入市町村名	面積(Km ²)	世帯数(世帯)	人口(人)
明治22年04月01日	関屋古新田を合併し市制施行	12.22	10,062	43,911
大正03年04月01日	中蒲原郡沼垂町を合併	20.52	15,611	91,604
昭和18年06月01日	中蒲原郡大形村を合併	38.22		
18年12月08日	中蒲原郡石山村を合併	58.19		
18年12月08日	中蒲原郡鳥屋野村を合併	72.55	34,711	191,663
29年04月05日	北蒲原郡松ヶ崎浜村を合併	79.54		
29年11月01日	北蒲原郡南浜村を合併	95.10		
29年11月01日	北蒲原郡濁川村を合併	103.75		
29年11月01日	西蒲原郡坂井輪村を合併	122.64	53,616	262,002
32年05月03日	中蒲原郡大江山村を合併	137.13		
32年05月03日	中蒲原郡曾野木村を合併	150.73		
32年05月03日	中蒲原郡両川村を合併	161.47	61,461	295,225
35年01月11日	西蒲原郡内野町を合併	177.97		
36年06月01日	西蒲原郡中野小屋村を合併	194.13		
36年06月01日	西蒲原郡赤塚村を合併	208.34	73,050	326,632
平成13年01月01日	西蒲原郡黒埼町を合併	231.91	199,910	517,779

平成17年03月21日	新津市を合併			
17年03月21日	白根市を合併			
17年03月21日	豊栄市を合併			
17年03月21日	中蒲原郡小須戸町を合併			
17年03月21日	中蒲原郡横越町を合併			
17年03月21日	中蒲原郡亀田町を合併			
17年03月21日	西蒲原郡岩室村を合併			
17年03月21日	西蒲原郡西川町を合併			
17年03月21日	西蒲原郡味方村を合併			
17年03月21日	西蒲原郡潟東村を合併			
17年03月21日	西蒲原郡月潟村を合併			
17年03月21日	西蒲原郡中之口村を合併	649.95		
17年10月10日	西蒲原郡巻町を合併	726.10	296,406	806,541
	(平成 27 年 3 月末現在)	726.45	327,723	801,270

資料：新潟市統計書

※世帯数，人口（住民基本台帳人口）は，合併年の年末（12月末日）現在

4 沿革

今からおよそ一万年程前，現在の新潟平野は一角に角田山，弥彦山のそびえ立つ浅い大きな湾となっていた。角田山麓から北東に向かって延びる砂洲が出現し広大な湾の前面をふさぐ形となり，ここに信濃川，阿賀野川が土砂を運び込み一大平野が形成されたと考えられる。

このような土地で，本市は古くから港町として発展し天保14年（1843年）幕府の直轄地となり，安政5年（1858年）の通商条約で横浜・神戸などととも5港のひとつに指定され明治元年（1868年）開港した。明治22年4月1日に，10,062世帯，人口43,911人，面積12.22K㎡をもって市制を施行した。以来港の改修，鉄道の開通，上水道の建設，高等教育機関の設置等が行われ，さらに各種工場が造られ商工業の伸長とともに大正，昭和と目覚ましい躍進を遂げた。中でも港の発展は鮮満貿易港として名をはせ，昭和12，3年頃戦前の頂点に達した。しかし太平洋戦争末期には港湾施設に大きな被害を受けたものの，港湾整備と近代施設の強化充実に努めた結果往時にもまして盛況を呈している。一方市街は昭和30年10月の大火，昭和39年6月の大地震により大きな被害に見舞われたが，その後の復興により，都市基盤整備や住宅団地の造成，生活環境の改善が飛躍的に進展した。

また，平成8年4月には中核市の指定を受け，さらに，21世紀冒頭の平成13年1月1日には隣接する西蒲原郡黒埼町と合併した。翌平成14年6月にはアジアで初めての2002 FIFAワールドカップ™が日本と韓国の各都市で開催され，新潟スタジアム（ビッグスワン）でも熱戦が繰り広げられた。

平成17年3月21日には，新津市，白根市，豊栄市，中蒲原郡小須戸町，同郡横越町，同郡亀田町，西蒲原郡岩室村，同郡西川町，同郡味方村，同郡潟東村，同郡月潟村及び同郡中之口村と合併し，同年10月10日には西蒲原郡巻町と合併し，平成19年4月1日に政令指定都市となった。

新潟市の市町村合併概念図



5 産業別人口

調査年次 区分		2000年(平成12年)		2005年(平成17年)		2010年(平成22年)	
		総数(人)	構成比(%)	総数(人)	構成比(%)	総数(人)	構成比(%)
総数		527,324 (808,969)		813,847		811,901	
15歳以上人口		451,005 (688,479)		701,099		703,682	
就業者総数		261,330 (405,593)	100.0 (100.0)	399,769	100.0	387,416	100.0
第一次産業	農業	6,006 (19,501)	2.3 (4.8)	18,498	4.6	13,643	3.5
	林業・狩猟業	19 (30)	0.0 (0.0)	15	0.0	78	0.0
	漁業・水産養殖業	144 (224)	0.1 (0.1)	182	0.1	125	0.1
	計	6,169 (19,755)	2.4 (4.9)	18,695	4.7	13,846	3.6
第二次産業	鉱業	266 (386)	0.1 (0.1)	317	0.1	294	0.1
	建設業	28,877 (46,641)	11.0 (11.5)	40,740	10.2	35,613	9.2
	製造業	29,451 (59,052)	11.3 (14.6)	51,364	12.8	46,544	12.0
	計	58,594 (106,079)	22.4 (26.2)	92,421	23.1	82,451	21.3
第三次産業	卸売・小売業・飲食店	73,178 (103,282)	28.0 (25.5)	104,250	26.1	74,992	19.4
	金融・保険・不動産業	12,084 (15,696)	4.6 (3.9)	14,429	3.6	16,731	4.3
	運輸・通信業	17,089 (25,792)	6.5 (6.3)	30,350	7.6	30,135	7.8
	電気・ガス・水道・熱供給業	1,762 (2,643)	0.7 (0.6)	2,337	0.6	2,362	0.6
	サービス業	78,910 (113,622)	30.2 (28.0)	116,382	29.1	136,636	35.3
	公務	10,335 (15,292)	4.0 (3.8)	15,296	3.8	14,158	3.7
	計	193,358 (276,327)	74.0 (68.1)	283,044	70.8	275,014	71.0
分類不能の産業		3,209 (3,432)	1.2 (0.8)	5,609	1.4	16,105	4.1

資料: 国勢調査

注: 2005年(平成17年)数値は、新潟市と巻町の合算値。